

学校運営協議会議事録

校名	大阪府立富田林支援学校
(准)校長名	校長:向山 和子 准校長:山寄 夏生

開催日時	令和8年2月26日(木) 9時30分 ~ 11時30分
開催場所	府立富田林支援学校 1階 会議室
出席者(委員)	安原 佳子委員(桃山学院大学 社会学部 教授)、北山 琢也委員(こんごう福祉センター さわかか 施設長) 小田桐 茂委員(富田林市立東条小学校長)、成澤 佐知子委員(四天王寺太子学園 施設長)、 前田 晶子委員(南河内障害者就業・生活支援センター所長)、土本 由紀子委員(本校PTA会長)
出席者(学校)	向山 和子 校長、山寄 夏生 准校長、出浦 美果 教頭、木曾 幸葉 教頭、間苧谷 眞吾 事務長 池田 修三 首席、下井 智史 首席、築 美緒 首席、油井 優子 指導教諭
傍聴者	1名(本校保護者)
協議資料	・令和7年度学校経営計画及び学校評価(案)、令和8年度学校経営計画及び学校評価(案) ・令和7年度学校教育自己診断結果 ・令和7年度中学部・高等部卒業予定者の進路状況

議題等(次第順)	
1 開会のあいさつ	
2 協議	
(1) 令和7年度学校経営計画に基づく達成状況について	
(2) 令和8年度学校経営計画及び学校評価について	
(3) 学校教育自己診断アンケート考察	
(4) 令和7年度卒業生の進路状況について	
(5) 意見交換	
3 その他	
協議内容等・承認事項等(意見の概要)	
1 校長よりあいさつ	
2 協議内容について	
校長・准校長より、令和7年度の学校経営計画の達成状況及び学校評価について報告を行うとともに、令和8年度の学校経営計画案並びに中期的目標について協議を行った。また各担当者より学校教育自己診断の結果や進路状況について説明を行い、その後、委員より感想やご意見をいただいた。	
(1) 令和7年度学校経営計画に基づく達成状況について	
校長より、学部研究や授業公開を通じた授業改善、初任者を中心とした教員研修の充実、防災学習の全校実施、保護者アンケート結果の改善等、教育活動の充実が図られたことが報告された。また、学校教育自己診断については紙媒体とICTを併用したことで回収率が向上したこと、教職員のストレスチェック結果の改善など、組織運営の面でも一定の成果が見られた。一方、課題として、1人1台端末の活用の学部間格差、人権教育のさらなる推進、全教員が一体となって取り組むいじめ対策への体制づくり、専門人材の活用の工夫、地域への支援教育機能の周知、働き方改革の推進等が示された。	
准校長より高等部の成果について、ICTを活用した授業改善において、授業支援アプリを活用し、教材および授業実践の共有を進めていること、教員間で教材を共有することで授業の質の底上げが図られ、また、ICT活用により授業づくりの効率化と教材の蓄積が進み、教員間の連携強化につながっていることが報告された。一方で活用法には幅があり、質的向上を図ることが課題であり、今後は活用の成果を明確にしていきたいという報告があった。	
(2) 令和8年度学校経営計画及び学校評価について	
令和8年度学校経営計画案については、めざす学校像を「学習・進路」、「地域・拠点」、「運営・環境」のキーワードを基に整理し、「個別最適な学びにより自立と社会参加を実現する学校」、「インクルーシブな教育を地域に広げる学校」、「働き方改革とウェルビーイングで質を維持する学校」とした。それに応じて中期的目標を、「個に応じた教育活動の推進と専門性向上」「地域と連携した安全、安心で魅力ある学校づくり」「協働的な学校運営と働き改革の推進」の3点を柱として整理した。	
(3) 学校教育自己診断について	
結果について概要説明があり、概ね肯定的評価であったが、改善が必要な項目については次年度の課題とした。	
(4) 令和7年度卒業生の進路状況について	
令和7年度卒業予定者の進路状況について報告があった。	
【意見交換】	

・働き方改革・教職員の状況について

ストレスチェックの数値が改善している点について、管理職や同僚からの支援体制が機能している成果であり、学校全体として働きやすい職場環境が整いつつあることが評価できるとの意見があった。一方で、時間外勤務時間の削減だけでなく、業務内容そのものを見直し、教職員が本来の教育活動に集中できる環境づくりが重要であるとのご意見があった。行動障がい等のある児童生徒の支援等において、介護補助などの教員以外の人材を活用することで、教員がより専門的な指導を行うことに専任できるのではないかと、というご意見があった。

・アセスメント研修について

一人一人の実態に応じた指導に必要な専門性については、単一の視点にとどまらず、多角的に捉えていくことが重要である。現在使用しているアセスメントツールには不十分な点も見られるため、世の中にあるさまざまなツールや知見を参考にしながら、本校の実態に即して活用できるものを検討していく必要がある。あわせて、校内で共通して使える実践的なチェックリストの作成にも取り組んでいきたい。

・ICT活用について

デジタル紙芝居や教材共有など、具体的なICT活用事例が示されている点は大変有意義であり、こうした取組を校内外に積極的に発信することで、ICT活用率の向上や教職員間の実践共有につながるのではないかとのご意見が出された。ICTは業務効率化だけでなく、学習の質を高める手段として位置付けていくことが重要であるとの考えが示された。

・学校教育自己診断について

学校教育自己診断について、保護者回答数の妥当性や、児童生徒自身の声をどのように評価に反映させていくのか、について課題提起があった。今後は、回答方法や対象の在り方を工夫しながら、より実態を反映した評価につなげていく必要があるとの意見が述べられた。

・進路指導について

進路指導に関して、児童生徒が将来を考える際に、多様な進路や働き方を知る機会をより多く設けることが重要である。また「自己決定」をするためには、小さい時からその基盤を作っていくことが大切であり、学校教育の中で取り組んでいく必要がある。選択するには、写真を見たり、話を聞いたりするだけではなく、職業体験など実際にその場に行き体験することが大切である。早い段階から様々な選択肢に触れることで、自分に合った進路を主体的に考える力を育てることにつながるというご意見をいただいた。自己決定の際、意思表出を表すのにカード等は使っていると思うが、どの段階かを把握して、体系的に取り組む、保護者へ説明していくことが大切であるというご意見もいただいた。

・連絡帳について

連絡帳は、保護者が学校での様子を把握するために、個別の様子を詳しく書いてほしいというご意見がある。一方、記入には一定の時間を要するため、児童生徒と関わる時間や、安全確保との両立が課題となっている。試行的に1人1台端末を活用して生徒が下校した後に連絡を入力している学校もある。教員の負担軽減と保護者への情報提供の両立を図る必要があるとのご意見をいただいた。

【まとめ】

令和7年度の学校経営計画及び学校評価、令和8年度学校経営計画及び学校計画のめざす学校像、中期的目標について承認された。

次回の会議日程

日時	未定
会場	府立富田林支援学校 会議室